

8 中皮腫センター



中央診療施設としての「中皮腫センター」は設立後7年目を迎える。外来機能を呼吸器内科及び呼吸器外科のスタッフが共同で運営している。特に胸膜中皮腫および石綿関連疾患に対する診療を重点的に行い、希少がんである中皮腫疾患のハイボリュームセンターとして、国内広域から症例が集約している。入院・治療への移行は、呼吸器内科、呼吸器外科で連携して診療を進めている。症例の検討には、画像診断グループ、放射線治療グループ、病理部門が加わった合同検討会を毎週開催し、病院あがりの協力体制で診療に取り組んでいる。国内では今後も10年以上はアスベスト関連疾患・中皮腫の増加が予想されており、中皮腫センターが担う社会的責務は重く、国内随一の拠点としての期待を背負って活動する。

[診療内容・専門分野]

- (1) 胸部悪性腫瘍、アスベスト関連腫瘍（胸膜中皮腫、肺癌）：診断及び治療方針は、合同カンファレンス（呼吸器腫瘍評議会、呼吸器病態・画像・病理セミナー）において各分野のエキスパート同士で検討する。治療に関しては、臨床情報、病理学的背景、合併症の有無、全身状態、社会的背景を総合的に考慮し、各患者さんに最適な治療法を提供する。日本石綿・中皮腫学会(JAMIG)のコアメンバーとして、今後も中皮腫に関する多施設共同臨床試験を企画・参加し、新しい診断・治療法の開発に貢献する。医療福祉の面では、アスベスト関連の職業歴のある労災申請や、職業歴のない石綿救済法申請に準拠し、医療社会福祉部が主導して対応する。全国から紹介・セカンドオピニオンを随時受け付けており、経験豊富なエキスパートが対応する。
- (2) アスベスト関連良性疾患：石綿肺、良性石綿胸水、びまん性胸膜肥厚、円形無気肺等のアスベスト関連良性疾患・胸膜プラークについては、悪性腫瘍の併発の有無を確認する。定期的な経過観察を厳重に行い、病変の出現時には適切に診断・治療へ移行する。
- (3) その他の胸部腫瘍（胸部悪性疾患、縦隔腫瘍など）：中皮腫以外の縦隔腫瘍についても、胸部悪性腫瘍として診療する。これらの疾患についても呼吸器腫瘍評議会において十分に検討を行い、適切な診断・治療を提供する。

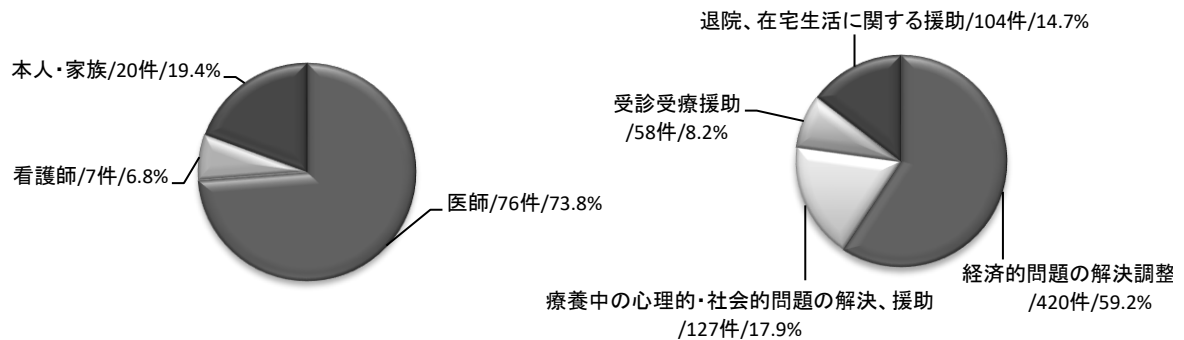
8-1 年度別延受診者数

(人)

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022年度 構成比率(%)
手帳健診	490	444	435	426	418	59.6
西宮・尼崎市健診	217	272	77	88	81	11.6
アスベスト健診	50	45	28	37	36	5.1
院外紹介	71	43	28	35	55	7.8
院内紹介	6				1	0.1
セカンドオピニオン	12	3	5		1	0.1
医療相談						
その他	64	46	32	112	109	15.5
合計	910	853	605	698	701	100.0

8-2 2022年度相談・支援活動・紹介経路の構成比率(合計103件)

8-3 2022年度相談・支援活動・援助内容の構成比率(合計709件)



8-4 2022年度診断名の構成比率(合計701件)

